

スピーカーユニットの極性切り換え機能について (DEQX 共通機能)

- スピーカーの極性を音響的に正しくセットすることはオーディオシステムの基本です。
 - 通常、スピーカーの極性を変更(位相を 180 度変えること)する場合、スピーカーの入力端子、あるいはパワーアンプの出力端子でケーブルのプラスとマイナスを入れ替えます。
 - 3Way システムの場合、それぞれの帯域を受け持つユニットの極性を変更するには左右合わせて6ヶ所で行います。また、それぞれの端子のところで行う必要があるため一人で行う場合、聴取位置で聞きながら変更することは出来ません。
 - DEQX を使用したシステムでは聴取位置にパソコンを持ってくれば、実際に聞きながら極性を変更して、音の変化を感じながらセットすることが出来ます。
 - DEQX でスピーカーを測定し、このデータから補正データを作って適用すると極性も含めて正しくチューニングされますが、補正データを使わないセット(バイパスポジション等)などでは音響的に正しい極性に合わせる必要があります。
- 極性の切替は Calibration ソフトの PDC Control Panel で操作します。

各 ch の出力レベルを表示

入力レベルを表示

左から
L1 OUT
R1 OUT
L2 OUT
R2 OUT
L3 OUT
R3 OUT

このスイッチで極性(Polarity)の切り換えができます。(「+」は正、「-」は逆極性です。)

● システム構成と出力端子(使用スピーカー)の関係

使用システム	出力端子の名称		
	L1/R1	L2/R2	L3/R3
3Way System	Low	Mid	Hi
2Way System	Sub-W	Low	Hi
Full Range	Sub-W	Full	-----

※ Sub-W はサブウーファの意味で、使用/不使用は任意です。